導入検討プラン 11 / 新しい役割を担う

AIの出力を、人が選んで使える仕事へ

AIを活用する事業・業務部門

AIの実装や評価を担う体制があり、利用する人と管理職の仕事を整えるとき。既存の評価方法と合わせ、確認の負担や品質責任を確かめます。

> 目指す仕事の状態
>
> 本人が出力を採用・修正する理由を説明でき、管理職と専門家が確認する条件もそろい、受け手が仕事で使える。

当社が担う仕事

01 前後の仕事を比べる

AIを使う前後で、作成、確認、修正、受け手の利用に誰の時間がかかるかを整理します。

02 人の判断を設計する

出力の採用基準、専門家へ確認する条件、本人と管理職の品質責任を実装担当とそろえます。

03 余力の使い方を確かめる

総時間と品質、本人の理解を確認し、余力が生まれた場合に任せる次の仕事を検討します。

最初に試す一件

既にAIを使える一業務を選び、作成から受け手の利用までを記録して、採用基準と確認の分担を試します。

導入と、実践後の確認

最初に確かめること

- AIを使うことで、誰の確認や修正が増えていますか。
- 利用者は、出力を採用・修正した理由を説明できますか。
- 余力が生まれた場合、どの新しい仕事へ使えますか。

社内に残すもの

- AI利用前後の仕事と負担の整理
- 出力の採用基準・確認条件・責任分担
- 品質・総時間・次の仕事の検討記録

実践後に確かめること

- 作成・確認・修正を含む総時間と品質
- 本人が説明できた採用・修正の理由
- 受け手が使えたことと、次に任せる仕事

一緒に進める人と役割

実装・情報管理の担当	AIの機能、利用・情報管理の条件、既存の評価を共有します。
利用者 管理職・専門家	採用と確認の基準を決め、実務で判断した理由を残します。
当社	仕事と役割の変化を整理し、実践課題と確認方法の設計を支えます。

実施条件と、役割の範囲

実装担当と業務責任者が参加し、AIの利用条件と記録できる情報の範囲をそろえます。 AIの開発・技術評価は実装側が担います。品質責任を先に決め、既存支援で必要が満たされる場合は追加しません。

支援を組み立てる根拠

本人が判断する範囲と周囲の支援をそろえる知見を用います。AIの性能や業務への適合は、実装側と対象業務で確かめます。

実務の確認・設計・実践支援の範囲に応じ、期間と費用をご提案します。

ご相談：requestgroup.jp/request

公開情報調査（2026年11月1日）から構成した検討案。

詳細を見る